

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック 保幼小中連携	自分力、つながり力を持つ て自立する子どもたち	・合同授業研の実施（養中） ・養精中ブロック保幼小中連携カリキュラムを活用し、日々の教育活動を行う ・授業研など他校種の授業参観 ・学校事務の共同実施	・前年度の振り返りと改善 ・合同授業研の実施（茨木小学校1校） ・小・小で統一した取組 ・他校種の様子を交流 ・保幼小中、異学年交流 ・学校事務の共同実施	・2年目までの検証 ・学びのシンポジウムの実施（中条小学校1校） ・校種をこえて取組などで子どもと大人がつながる ・校種間の段差を低くする そのための交流をもつ ・学校事務の共同実施
確かな学力の育成	互いに学び合い、主体的に学習する 子どもたち	・前年度の振り返りをふまえて目標を目指す。 ・小学校6年間中学校3年間を意識した「分かりやすく楽しめる授業」の実践を行う。 ・コミュニケーション能力を高める研究・実践をさらに進める。 ・学校で統一した授業スタイルを実践する。 ・情報機器を利用し、効果的な学習支援に努める。 ・読書活動を通して情操を養い、進んで学習する態度を養う。	・前年度の振り返りをふまえて目標を目指す。 ・小学校6年間中学校3年間を意識した「分かりやすく楽しめる授業」の実践を行う。 ・中条小学校・授業スタンダードづくり ・言葉の力の活用(全学年)・コミュニケーション能力を高める研究・実践をさらに進める。 ・学校で統一した授業スタイルを実践する。 ・情報機器を利用し、効果的な学習支援に努める。 ・読書活動を通して情操を養い、進んで学習する態度を養う。	・前年度の振り返りをふまえて目標を目指す。 ・小学校6年間中学校3年間を意識した「分かりやすく楽しめる授業」の実践を行う。 ・中条小学校・授業スタンダードづくり ・言葉の力の活用(全学年)・伝え合う力を高める研究・実践をさらに進める。 ・学校で統一した授業スタイルを実践する。 ・情報機器を利用し、効果的な学習支援に努める。 ・読書活動を通して情操を養い、進んで学習する態度を養う。
豊かな人間性を育む	一人ひとりが輝き、共に学び合う 子どもをめざして	・推進計画の作成 ・4委員会を中心に推進 ・校内研究（授業改善、授業に人権、集団・仲間作りの視点を入れる、ペア学習やグループ学習等） ・研修会の実施 ・各学年の人権カリキュラム、取組みの活用、推進。 ・各学年の総合カリキュラムの活用、推進 ・全教職員の人権意識の共通理解 ・道徳授業の教科化に向けた、学校体制の在り方の追求 ・安心して学べる環境づくり（人間関係、系統性のある人権学習の推進、授業規律等）	○初年度の取組みの検証と、計画の評価と見直し ・推進計画の作成 ・4委員会を中心に推進 ・校内研究（授業改善、授業に人権、集団・仲間作りの視点を入れる、ペア学習やグループ学習等） ・各学年の人権カリキュラム、取組みの活用、推進。 ・各学年の総合カリキュラムの活用、推進 ・全教職員の人権意識の共通理解 ・安心して学べる環境づくり（人間関係、系統性のある人権学習の推進、授業規律等） ・特別の教科道徳の授業の充実 ・校内平和学習の系統立てた学習基盤の作成 ・児童実態交流 ・リフレーミング（いじめについて）	○2年間の取組みの検証と、計画の評価と見直し ・推進計画の作成 ・4委員会を中心に推進 ・校内研究（授業改善、授業に人権、集団・仲間作りの視点を入れる、ペア学習やグループ学習等） ・各学年の人権カリキュラム、取組みの活用、推進。 ・各学年の総合カリキュラムの活用、推進 ・全教職員の人権意識の共通理解 ・安心して学べる環境づくり（人間関係、系統性のある人権学習の推進、授業規律等） ・特別の教科道徳の授業の充実 ・校内平和学習の系統立てた学習基盤の作成 ・児童実態交流 ・リフレーミング（いじめについて） ・男女共生研修
健康・体力の増進	意欲的に活動し、お互いに協力して運動を楽しむ子どもを育てる。	・校内実技研による授業力の向上 ・跳び箱・マットカリキュラムの改訂 ・縄とび月間などの全校的な活動の実施 ・体育教具の充実 ・全児童のスポーツテストの実施（29年度のみ）	・校内実技研による授業力の向上 ・跳び箱・マットカリキュラムの改訂 ・縄とび月間などの全校的な活動の実施 ・体育教具の充実 ・4，5，6年のスポーツテストの実施 ・体育委員会による休み時間の運動遊びの場の設定	・校内実技研による授業力の向上 ・跳び箱・マットカリキュラムの改訂 ・縄とび月間などの全校的な活動の実施 ・体育教具の充実 ・4，5，6年のスポーツテストの実施 ・体育委員会による休み時間の運動遊びの場の設定
支 援 教 育 の 充 実				

(1) 全国学力・学習状況調査

〇●国語●〇

(領域ごと)

- | | |
|------------|-------------|
| ①話すこと・聞くこと | 良好な結果であった |
| ②書くこと | 大変良好な結果であった |
| ③読むこと | 良好な結果であった |
| ④言語事項 | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして読む設問の、無解答率が低い傾向が見られた。

分析

- ・すべての領域において良好な結果であった。
- ・熟語を漢字にする問題で同音異義語と混同する誤答が多く、正答率が低かった。

取組み

- ・語彙力を高めるため、漢字学習の中で文章や熟語を書く学習をするようにしている。
- ・読書週間の取組み、図書館支援員の配置により、読み聞かせや図書室の整理、休み時間の図書室開放の時間帯を増やし、読書を楽しめる環境を作っている。
- ・各学年、音読の宿題やクラスでのスピーチの取組み、音楽劇などの発表会を行い、話す力を育む取組みをしている。
- ・各学年、日記、作文の取組みを行い、書く力を育む取組みをしている。
- ・国語・漢字の練習は毎日宿題に出し、間違い直し等こまめに指導を行っている。
- ・校内で研究して意見交流を行い、伝え合う力についての研究授業を行っている。

〇●算数●〇

(領域ごと)

- | | |
|-------|-------------|
| ①数と計算 | 大変良好な結果であった |
| ②量と測定 | 大変良好な結果であった |
| ③図形 | 良好な結果であった |
| ④数量関係 | 大変良好な結果であった |

(問題形式)

- | | |
|------|-------------|
| ①選択式 | 良好な結果であった |
| ②短答式 | 大変良好な結果であった |
| ③記述式 | 大変良好な結果であった |

(無解答率) 概ね良好な結果であった

(その他) 多くの問題で、無解答率が非常に低い。

分析

- ・すべての領域において良好な結果であった。
- ・示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して、成り立つ性質を記述する問題に課題が見られた。
- ・昨年度、課題があった量と測定領域では、実際に長さ、かさ、重さをはかり、単位など比べながら1つ1つ確実に定着させることに重点を置いた授業を行った結果、改善が見られた。

取組み

- ・個別指導やつまずきやすい単元ではプリントやワークシートを活用して習熟できるようにしている。
- ・中学年のつまずきの多い時期に、習熟度の取組みをし、丁寧な指導を行っている。
- ・日々の算数の実践を学年で共有し、教材研究を深めている。
- ・算数科の問題解決学習に取り組んでいる。
- ・算数の宿題をほぼ毎日出し、間違い直し等の指導を行っている。
- ・算数科においては、重点的に学習サポーターに支援してもらい、子どもたちのつまずきを減らせるよう取り組んでいる。
- ・ICT 機器の活用をしている。

〇●経年比較●〇

全体的な傾向についての分析

上下はあるが、例年良好な結果、大変良好な結果で推移しており、全国平均より高い位置を維持している。

学力高位層と学力低位層、エンパワー層についての分析

昨年度に比べて、国語・算数とも高位層、低位層ともに減少している。

エンパワー層は、昨年度に比べて減少している。

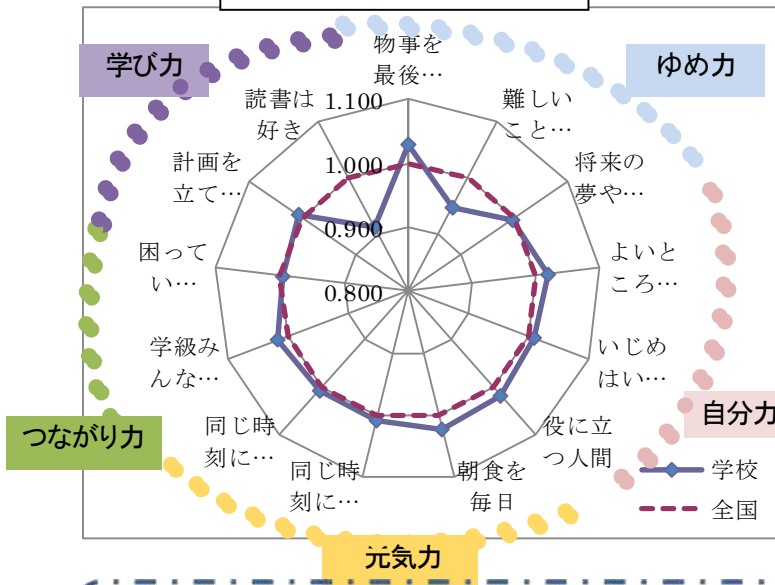
〇●取組み●〇

学力向上に関する取組み

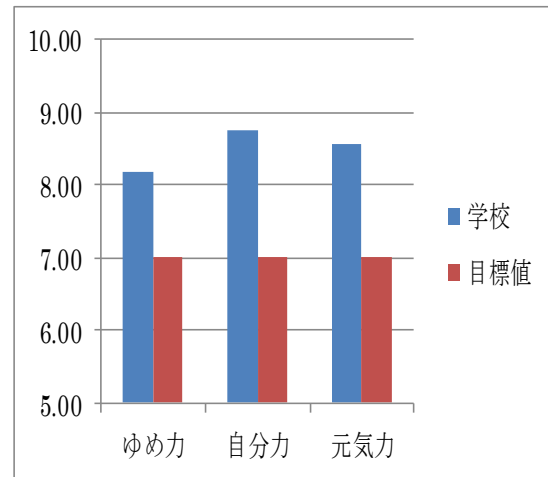
- ・どの児童にもよく分かり、主体的に学習する授業のあり方を研究している。
- ・伝え合う力の育成・取組みの研究をしている。
- ・朝の読み聞かせや読書週間で本を楽しむ機会を持ったり、本の紹介を掲示したり、ボランティアによる読み聞かせや読書会を行い、読書活動の推進をしている。
- ・図書館支援員、図書委員会が連携し、図書室を開放する時間を増やし、子どもが本に親しむ機会を増やしている。
- ・国語科においては、校内で研究して意見交流を行い、研究授業に取り組んでいる。
- ・三年生で、算数科における習熟度別指導の実施をしている。
- ・算数科においては全校で問題解決学習に取り組んでいる。
- ・学習サポーターと打ち合わせを密にして子どもへの支援の配置を工夫し、個別の学習支援をしている。
- ・情報研修も行い、デジタル教科書、書画カメラやタブレットなどICT機器の活用をしている。
- ・合理的配慮の観点から、児童の体格にあった机・いすの高さ調節をおこなう、いすに滑り止めシートをつける、前面掲示板に目隠し用のカーテンをつけるなど、教室環境の整備に取り組んでいる。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は新聞紙項目が変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は13項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『ゆめ力』『自分力』と元気力』のみとなっています。

分析

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある児童が多い。
- ・難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦する児童がやや少ない。
- ・昨年度同様「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」とほとんどの児童が答えているが、否定的な答えを出している児童も全国平均と比べて多い。いじめを許さない、見逃さないという姿勢を育てていく必要がある。

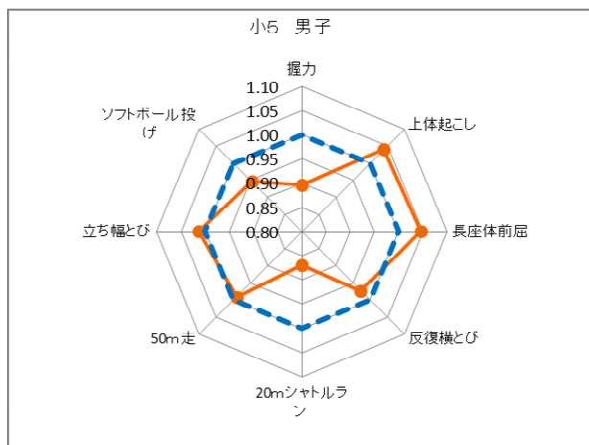
取組み

- ・普段からの集団作り、人権感覚の育成に取り組む。
- ・道徳の授業を通して、いじめに関する法律について学習したり、いじめが決して良くないことなどの道徳的判断力を育てる。
- ・リフレーミングのワークに取り組み、自己肯定感を高めている。
- ・人権を大切に、一人ひとりが輝き、共に学びあう子どもを目指している。
- ・スピーチやグループでの話し合い、聞き合う機会を設けている。
- ・日記や作文などで自分の思いを表現する機会を設けている。
- ・日々の学習活動に加え、体験学習・社会見学などを通して、学ぶ力・考える力・解決する力を身につけさせるよう努めている。
- ・学級文庫の交換やブックトーク、おすすめ本の掲示など本を好きになるように取り組んでいる。
- ・生活指導上での問題については、朝会や学年、学級で児童への指導を続けている。
- ・児童会が主体となり、あいさつ運動、中条フェスティバル、ハッピー学級の交流を通して、高学年は、自立活動、自主性、創造性を育てるように、低学年は、高学年の活動により学校へ行くのが楽しくなるように繋げている。
- ・運動会での応援団や各役割での取組みを通して、高学年は責任感やリーダーシップを持つことができ、低学年は、高学年からの働きかけにより協調性を持つことができる。
- ・生活指導部会、特別活動部会で連携をして、廊下を歩きましょうの取組みをするなど、きまりを守る意識を持たせるようにしている。
- ・日記、作文、学習の振り返りなど、自分の思いや考えを表現する機会を設けている。
- ・自分の考えを安心して話せるような雰囲気作りに努めている。
- ・身体測定の時に、養護教諭が保健指導を行っている。
- ・栄養教諭が、全学年に食育を行っている。
- ・失敗しても笑われないと思える安心感を与えられるような雰囲気づくりをしている。
- ・考え方の過程を尊重することを意識した授業を実践している。
- ・業務サポーターの活用、環境整備、会議時間の短縮、事務改善を進め、教材研究をする時間や子どもと向き合う時間の確保に努めている。

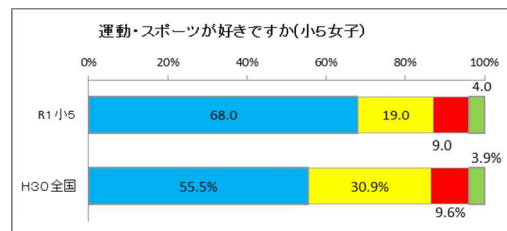
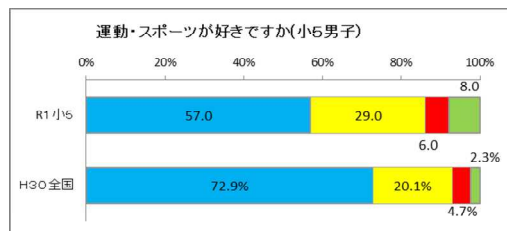
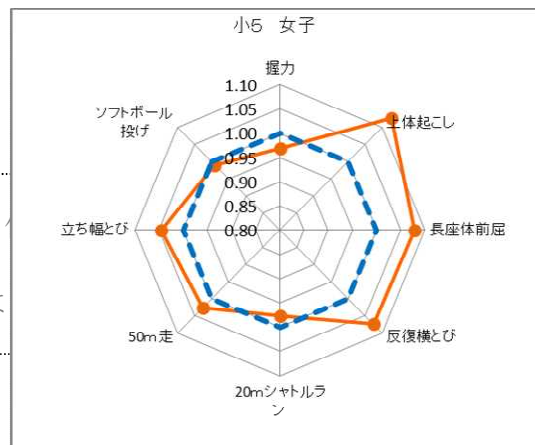
(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

○●体力●○

男子 (小5)



女子 (小5)



好き やや好き ややきらい きらい

分析

- ・男女ともに、握力と20mシャトルラン、ソフトボール投げに課題が見られる。
- ・男女ともに全国平均と比べ、上体起こしと長座体前屈、立ち幅跳びは良い結果を残している。
- ・女子においても、20mシャトルランや反復横とび、長座体前屈では全国平均を上回っている。
- ・男子は「運動・スポーツは好きですか」との問いに「好き」と答えた児童は全国平均を下回っている。
- ・女子は「運動・スポーツは好きですか」との問いに「好き」と答えた児童は全国平均を上回っている。
- ・「運動・スポーツは好きですか」との問いに否定的な回答をしている児童も少なからずいるため、運動が楽しいと思えるような取組みを模索していく必要がある。

取組み

- ・体力の実態把握、分析からボール運動などの実技研修を通して体力向上に取り組むよう努めている。
- ・運動会や縄跳び月間などの体育的行事を行い、児童が楽しく運動に取り組める機会を設けている。
- ・児童が安全で楽しく運動できるように体育用具を管理し、充実させている。
- ・学校と地域が一緒になって、体を動かす機会を設けている。
- ・茨木っ子運動Ⅱを授業の中で取り入れ、体幹強化を図っている。
- ・指導内容の学年交流をすることにより、学習の系統性を明確にしている。
- ・校内の体育部より6年間を見通しての指導内容のカリキュラム等が示され、どの領域も運動できている。
- ・体育委員会の児童が中心となり、休み時間を活用した児童主体の運動遊びの場を設定している。クラスごとに考え、工夫した場を設定していることでたくさんの児童が楽しみながら運動に親しむことができています。